

自分の教員人生を振り返ってみると、私は「〇〇通信」や「〇〇だより」を出すタイプの教員に分類できると思う。学級担任であれば学級通信である。小学校では「かがやき」中学校では「薫風」であった。生徒指導主事であれば、生徒指導だより「薫風」となり、進路指導主事であれば、進路通信「夢～ dream～」となった。研修主任であれば、研修だより「拓く」である。部活動顧問としては、部活動通信「かがやき」であった。また、ローマから福島へは、ローマ通信「Ciao Ciao」を送っていた。

結果的に、いろいろと取り組んだのだが、一番やりたかったのは、「国語科通信『窓』」だった。大村はま先生の本を読み、国語科通信の実践を知って以来、いつか自分でも取り組んでみたいと思っていたのである。

3校目の中学校がそのタイミングのはずであったが、毎日それどころではなく、仕事上仕方なく出していた生徒指導だよりだけになってしまっていた。この「生徒指導だより『薫風』」は、一体学校では何が起きているんだと不安に思っている保護者へ向けて、可能な限り現状を報告し、理解を求めるためのものであった。したがって、楽しいといえるものではなかった。

次のローマ日本人学校では、学級通信をはじめ〇〇通信を勝手に出すことはできなかった。出すのは学校便りのみと決まっていた。そうすることが、指導の差を生じさせず、先生方を守り、学校を守ることになっていたのだと思う。ローマ通信「Ciao Ciao」は、定期報告として毎月、県教委、県北教育事務所、福島市教委、お世話になった校長先生、所属の中学校などにエアメール、国際航空郵便で送っていた。

おかげで、3年が経ち福島に戻っても、「ああローマ通信の先生ね」と認識していただけた。その後、知り合いの先生が中国の青島日本人学校に赴任したときには、メールで私の所に「青島通信」が送られてきた。

「進路通信『夢～ dream～』」は、総合的な学習の時間に取り組んだ「パーソナルポートフォリオ」の実践とタイアップさせたものである。「パーソナルポートフォリオ」を知った私は「これだ」と思い、すぐに先進校である横浜国立大学附属中学校に出かけ、直接話を聞いてきた。そして、幸いなことに貴重な「パーソナルポートフォリオ」の現物を1年間借りることができた。感謝である。

学級通信『薫風』の製本作業は、毎年ソフトテニス部の生徒たちに、「唐揚げ弁当お茶付き」で丁合を手伝ってもらっていた。中には、自分の学級でもないのに、「先生私も1冊ほしいです」という生徒もいた。その生徒は、自分の後輩の代の部活動通信『かがやき』もほしいと言っていた。彼女は現在、中学校の養護教諭として立派に活躍している。

結局、憧れの「国語科通信『窓』」を出すことができたのは、5校目の中学校に勤務するようになり、その2年目からである。やってみて非常にいいと思った。同時に、もっと早くやりたかった、もっと早くやればよかったと思ったものだが、時すでに遅しであった。さすがは、大村はま先生である。すばらしい実践をされている。

学級通信と研修だよりや進路通信、部活動だよりと並行して国語科通信も出していたため、全く余裕はなかった。しかし、時間をつくり出すことを覚えた、この頃の私は、国語科通信を毎週1回は必ず出し、年間50号ずつ5年間にわたり楽しみながら出すことができたのである。

(次号に続く)